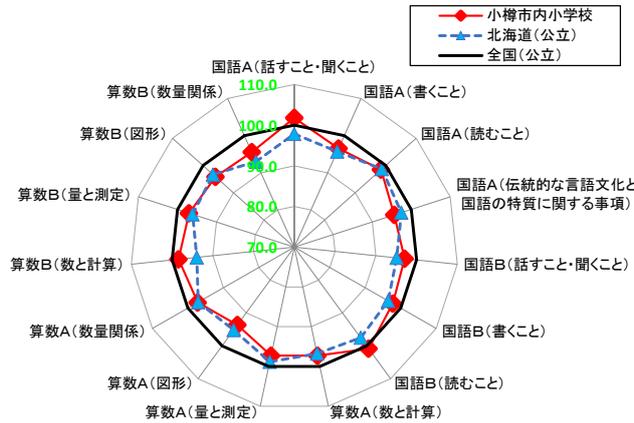


# ■小樽市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:21、児童数:752名)

## 【教科全体の状況】

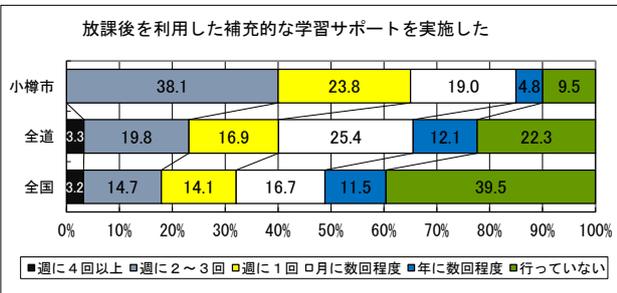
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



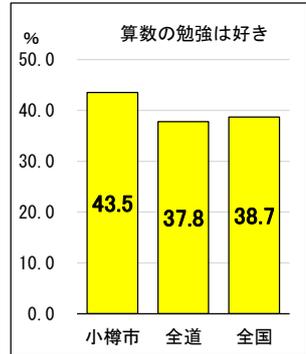
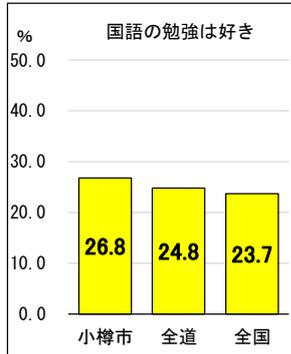
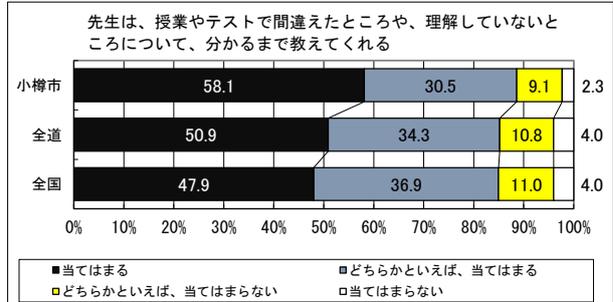
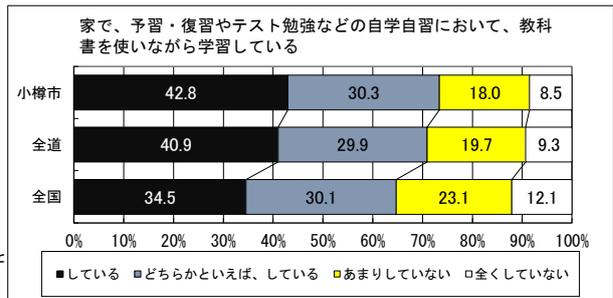
## 〈小樽市内小学校の平均正答率〉

国語A	国語B	算数A	算数B
70.4	56.6	75.3	45.4

## 【学校質問紙調査】



## 【児童質問紙調査】



## 【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国語Aでは、「話すこと・聞くこと」、Bでは、「読むこと」で、全国を上回っている。また、国語Aでは、「書くこと」、Bでは、すべての領域で、全道を上回っている。</li> <li>○ 算数Aでは、「数と計算」「数量関係」、Bでは、「数と計算」「量と測定」「数量関係」で、全道を上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 書く活動を取り入れる等、言語活動の充実を図った結果、一人一人の思考力・判断力・表現力等が向上し、国語Bの「読むこと」で、全国及び全道を上回り、算数Bの「数と計算」「量と測定」「数量関係」と国語Bのすべての領域で、全道を上回ったと考えられる。</li> </ul>
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っている。</li> <li>○ 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っている。</li> <li>○ 「国語の勉強は好き」「算数の勉強は好き」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 放課後を利用した補充的な学習サポート及び教科書を活用した予習、復習の実施などの取組を進め、教師が、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えた結果、児童の学習意欲が高まり、基礎的・基本的な内容の定着が図られ、国語Aの「話すこと・聞くこと」で、全国及び全道を上回り、国語Aの「書くこと」、算数Aの「数と計算」「数量関係」で、全道を上回ったと考えられる。</li> </ul>
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「週に1回以上放課後を利用した補充的な学習サポートを実施した」と回答した学校の割合が、全国を上回っている。</li> </ul>	

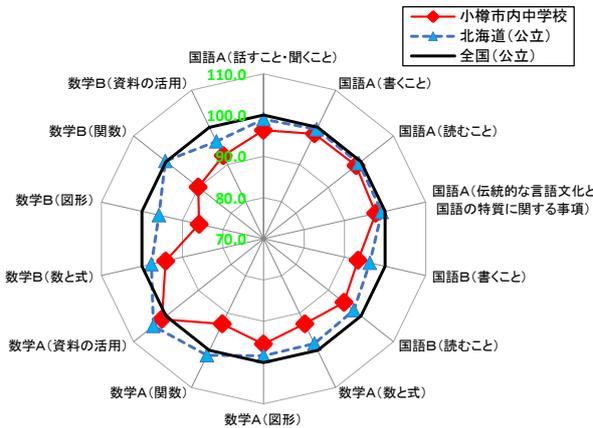
## 【小樽市の学力向上策】

- ◎ 家庭学習の習慣化を目指す「音読」の取組の推進と音読の質の向上に向けた「音読カップ」の開催
- ◎ 「学力向上改善プラン」における、各学年の定着目標の設定及び基礎学力の定着を図る学期末等の確認テストの実施
- ◎ 「樺っ子学校サポート事業」など外部人材を活用した放課後や長期休業中における学習活動の工夫
- ◎ 児童生徒及び保護者の進路選択に対する関心等を高める「商大・能開大・高等学校等進路説明会」の実施
- ◎ 「学力向上検討委員会」を設置し、委員を講師とした授業改善に向けた研修会の実施
- ◎ 市内すべての小学校第3学年、第5学年を対象とした標準学力調査を実施し、その結果を活用した授業改善

# ■小樽市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:13、生徒数:859名)

## 【教科全体の状況】

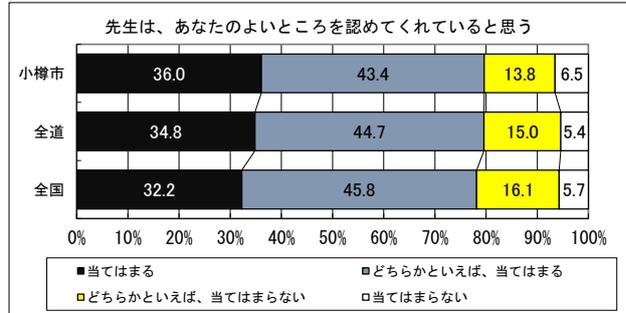
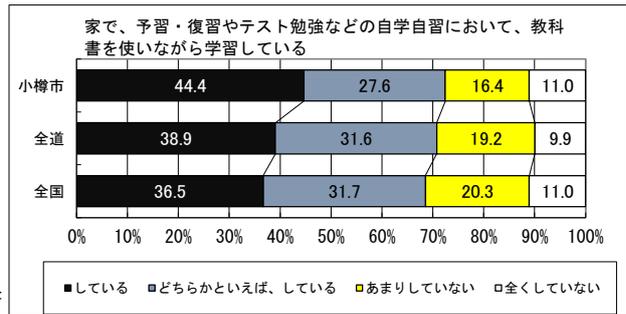
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



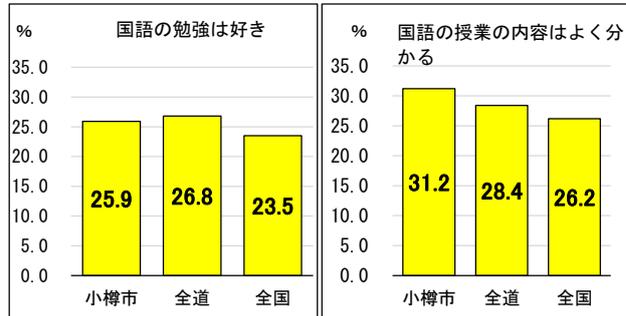
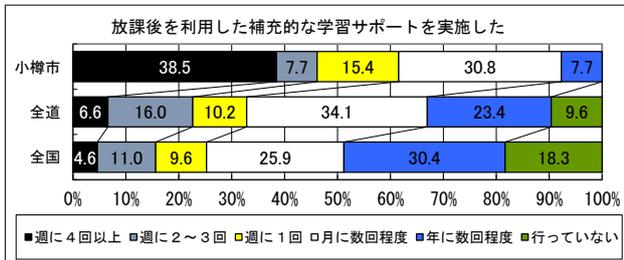
## 〈小樽市内中学校の平均正答率〉

国語A	国語B	数学A	数学B
73.9	63.0	58.9	40.5

## 【生徒質問紙調査】



## 【学校質問紙調査】



## 【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国語Aでは、「書くこと」「読むこと」で、全道とほぼ同様になっている。</li> <li>○ 数学Aでは、「資料の活用」で、全国を上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 書く活動を取り入れる等、言語活動の充実を図った結果、一人一人の思考力・判断力・表現力等が向上し、国語の授業の内容がよく分かる」と回答した生徒が、全道、全国を上回ったと考えられる。</li> </ul>
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。</li> <li>○ 「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。</li> <li>○ 「国語の勉強は好き」「国語の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 放課後を利用した補足的な学習サポート及び教科書を活用した予習・復習の実施などの取組を進め、教師が生徒のよいところを認めた結果、生徒の学習意欲が高まり、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図られ、数学Aの「資料の活用」で、全国を上回ったと考えられる。</li> </ul>
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「週に4回以上放課後を利用した補足的な学習サポートを実施した」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。</li> </ul>	

## 【小樽市の学力向上策】

- ◎ 家庭学習の習慣化を目指す「音読」の取組の推進と音読の質の向上に向けた「音読カップ」の開催
- ◎ 「学力向上改善プラン」における、各学年の定着目標の設定及び基礎学力の定着を図る学期末等の確認テストの実施
- ◎ 「樽っ子学校サポート事業」など外部人材を活用した放課後や長期休業中における学習活動の工夫
- ◎ 児童生徒及び保護者の進路選択に対する関心等を高める「商大・能開大・高等学校等進路説明会」の実施
- ◎ 「学力向上検討委員会」を設置し、委員を講師とした授業改善に向けた研修会の実施
- ◎ 市内すべての中学校第2学年を対象とした標準学力調査を実施し、その結果を活用した授業改善